

寒さに縮こまっていた水仙のつぼみが開き始めました。お雛さまもほっとなさっているでしょう。ヴォーリズ六甲山荘の再開も間近です。そろそろ冬籠りを解きましょう。

お知らせ

- ・町並み研究会 3月10日(土) 大阪市・住吉、阿倍野地区(すでに定員に達しました)
- ・ヴォーリズ六甲山荘公開再開 4月1日(日)
- ・建物の保存を考える in Tokyo 4月7日(土) 横浜旧居留地
- ・アメニティ・アカデミー「ヴォーリズ建築再見」開講 4月14日(土)
- ・和のこもの展 4月25日(水) 26日(木) 草志舎
- ・ナショナル・ガーデンズ・スキーム 5月19日(土) 正司邸
- ・英国ナショナル・トラストの旅 6月10日～19日 スコットランド

予告1**建物の保存を考える in Tokyo～横浜旧居留地**

横浜の建物と歴史に詳しい嶋田昌子さん(横浜シティガイド協会副会長)のご案内でまわります。

月日 **2012年4月7日(土)** 訪問先 横浜居留地(旧日本人街と居留地)
 集合 午前10時 JR 関内駅北口 解散 みなとみらい元町中華街駅 午後4時頃
 参加費 会員 1,500円 一般 2,000円(入場料込み)
 定員 30名(定員に達し次第締め切ります)
 詳細は同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

ご報告1

歴史的建築物研究会 2012年2月18日(土) 神戸市・旧居留地

大変寒い日でしたが充実した一日でした。森山芳子さん以下ガイドの方々の案内を受けながら、旧居留地とその周辺を歩きました。重厚な、あるいはおしゃれなビルの多くがいまだに健在で、それぞれに活用されていました。小さな部屋に若い人達の店がはいり、お客が次々と来ている様子が頼もしかったです。長年神戸に住んでいるけど知らなかった!という参加者もおられ、皆さん満足の日でした。

神戸税関→

**緊急! 英国ナショナル・トラストの旅～スコットランド編**

6月に予定しているスコットランド旅行ですが、皆さまにはご検討いただいておりますでしょうか。今年は英国でオリンピックが開催されることや、格式のあるホテルでは予約が逼迫しているようで、早めに部屋数を押さえる必要があり、JTBから参加者の確定をできるだけ早くしたいとの要請がきています。

すでにお申し込みいただいている方以外に、参加の意向のおありの方はご連絡ください。

6月は現地では時候のいい時期です。緑を満喫できる旅にぜひ一緒にしましょう。

月日 **2012年6月10日～19日(7泊9日)**
 参加費 会員 397,000円 一般 407,000円
 成田発は1万円プラス

予告3**和のこもの展**

毎年好評の和のこもの展を開催します。賛助会員であるあしやクローバーの皆さんが手作りするこもの展示即売会です。着物をほどいて、袋物やマットなどに仕上げた作品や押し花のこもののが並びます。仕事がいねいで色使いがおしゃれな品物満載の会場へぜひおこしくください。

なお昼食と喫茶は協会が担当します。こちらのスタッフも募集しています。

月日 **4月25日(水) 26日(木)**
 場所 草志舎

【コラム】

町並みを歩いて

清水 順子

この号でも出てきますが、町並み研究会は3月の住吉・阿倍野探訪で37回目となります。設立当初から毎年数回開催しているのですが、思えばあちこち行ったものです。個人的に行ったことのある場所もありましたが、それぞれにガイドをお願いして案内を受けながら歩くのはやはり違います。その町の歴史、魅力、どういう産業で栄えたか、なぜこんな町並みになったのか・・・その町に住んでいる人ならではの語りぶりはいつも“熱い”ものでした。

けれどもこうした町並みを歩きながら、いつも気になることがあります。町をつくりあげた産業が衰えてしまった現在、建物だけでなく人々の生活を支えるのは何なのか。それぞれの町では町歩きガイドを養成し、案内板などを整備し、パンフレットを作り、広報を展開し・・・と努力していますが、それが町の活性化につながるかといえば、必ずしも成功例ばかりではないようです。重要伝統的建造物群保存地区に指定された町でさえ状況はあまりかわりません。生活できなければ若い人達は都会へ出ていきます。白壁と瓦屋根の連なりが美しかったあの町も、板壁が独特の色に塗られたこの町も、通りにも店にもほとんど人の気配がなく、あまりにも静かでした。

先日歩いた神戸の旧居留地では、裏通りに面した古いビルの小さな部屋が若い人達に人気のブティックやカフェなどに变身し、次々とお客を集めていました。これは都会だからこその選択肢です。大都市の通勤圏にも入らない町が、日本の歴史のページの証人としての姿を後世に伝えていくにはどうすればいいのか。非力な私には何もできないけれど、三重県の宿場町閑宿で会ったおばあさんが「若い人はここには住みきらん。私の代で終わりじゃ」と話しておられた顔が忘れられないのです。

町並み研究会のリクエスト企画～アンケートのお願い

アメニティ 2000 協会では設立のころから町並み研究会で近畿一円の古い町並みが残っている地域を訪問してきました。この3月に予定している住吉・阿倍野探訪で37回目となります。最近新しい会員の方々から以前に行ったところをもう一度企画してほしいとの声が聞かれるようになりました。またあの町並みとその後も守られているのか、検証のためにも再訪することも大切だと思います。

そこでどこを再訪するのがいいかアンケートをとらせていただきます。同封の用紙あるいはホームページでお答えいただきますようお願いいたします。その結果を今後の計画に反映させていただきます。

《お薦めの本》

須賀敦子著 「トリエステの坂道」

白川 賀津子

ここ数年、須賀敦子さんの著作を読んでいる。

良家の子女として夙川に生まれ育ち、小林聖心女学院、聖心女子大学に学んだ後、イタリアに渡り翻訳家として活躍したひとである。谷崎潤一郎や川端康成などの日本文学作品の翻訳をはじめ、ギンスブルグ、サバといったイタリアの著名な作家や詩人の作品を日本語訳した翻訳家として活躍した。後年には自身のイタリアでの生活をしたためた作品が文筆家として高く評価されることとなり、没後全集が出るほどの人気ぶりである。あらためて書棚を見てみると、四冊の著作と二冊の翻訳、そして彼女をめぐる一冊のガイドブックがあった。いずれも素晴らしいので随分悩むことになったのだが、このたびは『トリエステの坂道』（新潮文庫）を紹介させて頂くこととした。我々が知ることのないイタリアの翳とも云うべき哀愁に満ちた側面を、夫ペッピーノとの暮らしを軸として綴った作品である。また、本の題名ともなっている「トリエステの坂道」では、詩人ウンベルト・サバの足跡を辿るトリエステへの旅の過程で、自身の内面とも向き合う姿が垣間見える。

サバはユダヤ人であり、夫ペッピーノは下級階級の家で育った人であった。彼女は所謂社会的弱者とも云える人びとを屢々題材としているが、そういった人びとの中に、自身の中に在ると同じ悲しみや翳といった共通項を見出していたのかもしれない。長くイタリアに暮らした一級の知識人である須賀敦子という女性。強くしなやかに生きた彼女にあっても、生きる中での悩みや悲しみというものが、私達と同じように在るのだと、同じ女性としてなにか励まされるような気持ちになるのである。

建築や美術にも造詣の深い人であったから、陳腐でない高級な描写で、イタリアのまちなみを、そして建築を多くの作品の中で紹介してくれている。その心地よさを味わいながら、自分もいつしかイタリアの或るまちを旅しているような錯覚に陥るのだから、建築好きの皆さんならきっと作品の良さを判って頂けることだろう。撰び抜かれた言葉の、リズム良い連続は、翻訳家として言葉と対峙してきた人だけが獲得する洗練された文章と云って過言ではない。文章を読み進める際の或る種の不快感に悩まされることはないから、小説やエッセイなどの読み物に少々興ざめしてしまうという方には、是非一読されたい。彼女の作品の中に何だかの共通項を見出しながら。（新潮文庫）

<次回は幸田明子さんをお願いします>

◇◆◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

歴史的建築物研究会に参加して

井上 千佳子

歴史的建築物研究会は私にとって 2 回目の参加でした。アメニティには何年か前から入会してたものの 1 人参加という事は気の弱い (!) 私には最初の一步がなかなか踏み出すことができずにいました。でも勇気を出して 1 回目参加したところ、1 人の方も多く初対面の方とも興味が同じなのですぐに打ちとけることができました。そういう体験もありまた今回の甲子園会館は以前から興味があったので、とても楽しみにしておりました。無知な私は甲子園会館→甲子園ホテル→武庫川女子大学という結びつきがいまひとつわかっていなかったのですが、係の方の説明を聞き、昭和 5 年に甲子園ホテルとして誕生し戦争中には海軍病院として使われ終戦には米進駐軍の将校宿舎として使用され昭和 40 年武庫川女子大学が譲り受け、改修。教育施設として再生された事などを知りました。その建物は私が想像していた以上にすばらしく、こんなに近いところにこのような建築物があった事に驚きました。和、洋の建築美の中に私は以前訪れたバリ島のどこかの建物に似てるように感じました。

私が特に感動したのは壁面の褐色のレリーフテラコッタでした。それはアメリカンキルトの中のログ (丸太・棒) を重ねていく建て方のイメージから生まれたパターンのキルトそっくりだった事です。また最後に見学した部屋の床のタイルの色とタイルの配置の仕方のすばしかった事！まるで韓国のポジャギのようでした。皆さんよくごぞんじだと思いますが、ポジャギとは韓国の風呂敷のようなもので、物を包んだりお膳にかぶせたりする布の事です。衣服の残り布や使い古した布をぬい合せて一枚の布にするのですが、その幾何学模様の中にクレーとかモンドリアンにも似ていると言われ現在ちょっとしたブームになっています。

それを見てすぐにカメラを持参しなかった事を後悔しながらもケイタイのカメラで夢中でとりました。いつかゆっくりとした時間が持てるようになったら、この中のパターンを使ってキルトやポジャギを創ってみたいと思います。

ここを出る頃ポツリポツリと心配していた雨が降り始めましたが、松山大学温山記念館 (旧新田邸) に向いました。ここもまたすばらしく、玄関の入口のところがイスラム模様、リビング横のガラスはステンドグラスと、その美しさにため息をつきながらフト外を見ると大きな池やゆったりとした庭園があったのでさっそく外に出て散策させて頂きました。こんなにもぜいたくな時間をすごせる事に感謝しながら――

次はそこからバスで甲子園球場へ。以前何回か高校野球、アメリカンフットボール観戦に来た事はありませんが、リニューアルされた甲子園球場は始めてでした。静かな広い球場に私達だけ案内して頂いたのは初体験ですが、何よりもベンチの中に入れて頂きその目線からグラウンドを見れるという事に感激して思わず係の方に写メを撮ってもらいました。帰る頃外は寒く雨はますます強く降っていましたが、少し興奮気味の私はそれもまた心地よく家にたどり着きやっとなら現実の世界へと引きもどされる事となりました。充実した楽しい 1 日ありがとうございました。



松山大学温山記念館 (旧新田邸)

六甲山荘たより

六甲山荘のガイド研修と公開準備

六甲山上は雪景色が長くつづきました。作業に上がったスタッフが雨戸を開けようとする、凍りついていて開けられなかったそうです。雪の上にはいろいろな動物や鳥の足あとがありました。人のいない山荘は動物が闊歩しているのですね。

4 月 1 日のオープンをめざして、3 月末には開場準備をします。

まずはガイドの研修を行いたいと思います。これまでにガイド経験のある方はブラッシュアップのために、未経験の方でもやってみようかと思っておられる方もぜひご参加ください。

同時に屋内外の掃除と室内の設営、喫茶の準備なども行います。石窯も再開して、火をいれてみましょう。まだ少し寒いかもしれませんが、久しぶりの山荘へどうぞおいでください。



月日 3 月 30 日 (金) 31 日 (土)

マーマレード作りを一緒に！

春の便り、中嶋さん（熊本）の柑橘を味わっておられる方も多いとおもいますが、その中嶋さんの甘夏を使ったマーマレードを作ります。添加物、防腐剤を一切使わない、手作りのマーマレードです。六甲山荘での喫茶に使ったり販売します。

このマーマレード作りに参加くださる方を募集しています。おいでになれる方はご連絡ください。

日時 3月13日（火）

場所 草志舎

持ち物 包丁、エプロン

アメニティ・レポートの原稿募集

5月末の総会にあわせて発行するアメニティ・レポート2011の「会員の声」への原稿を募集します。題は自由、日頃考えていること、印象に残ったこと、面白い経験などなど、好きなことを好きなように書いて、お寄せください。

字数：400字前後

締切り：3月末

皆さまの「お声」を楽しみにお待ちしております。

歴史的建築物研究会・神戸旧居留地探訪 2月18日



海岸ビルヂング（旧日豪会館）



旧居留地十五番館にて昼食